

令和3年度高齢者あんしんセンター事業経費決算について

1. 業務委託内容

高齢者あんしんセンターでは、下記の①～④の地域支援事業に係る業務等を委託している。なお、委託業務のほか、高齢者あんしんセンターにおいては、指定介護予防支援事業者としての指定を受け、予防給付に係る介護予防支援業務も実施している。

- ① 総合相談支援業務
- ② 権利擁護業務
- ③ 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務
- ④ 介護予防事業

2. 令和3年度収支決算について

(1) 令和3年度各高齢者あんしんセンターの収入について

ア. 基本委託料等

- ・ 基本業務
 - 年額 緑風園 ; 22,275,000 円
 - 長生園・萱振苑 ; 20,047,500 円
 - 他 12 包括 ; 17,820,000 円
- ・ 啓発経費 年額 157,361 円
- ・ 地域包括支援センター運営システムサーバーリプレイス設置経費
年額 241,560 円

イ. 実績加算分

- ・ 実態把握委託料（徘徊高齢者家族支援事業実態把握委託料含む）
- ・ 特別定額給付金未申請者訪問勧奨業務委託料
- ・ 地域型介護予防教室事業委託料
- ・ 家族介護教室事業委託料

ウ. 介護予防支援費及び介護予防ケアマネジメント費

(2) 令和3年度高齢者あんしんセンターの事業経費決算の総計

ア. 収入 3億7,069万3,012円

イ. 支出 3億7,069万3,012円

全ての高齢者あんしんセンターにおいて精算を行っている。うち、15か所の高齢者あんしんセンター（12法人）では、法人から繰り入れをしている（人件費や、施設維持管理費の施設内按分のため）。

3. 事業報告

①介護予防支援事業

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、教室開催が困難な時は事業所の協力を得て体操や脳トレを紹介したニュースレターを作成し配布し、後日取り組み状況を確認した。
- ・コロナ禍の孤独や意欲・筋力低下を自覚している高齢者に対し、ラジオ体操・名札・ポイントカードの活用をすることで、参加意欲と参加者同士のコミュニティが高まった。

②総合相談支援業務

- ・相談件数は年々増加。民生委員や近隣住民からの相談も増えている。
- ・介護保険や介護サービスに関する相談が増えている。
- ・8050 問題や家族の精神疾患、認知症の問題等複雑なケースが増えており、さらに関係機関との連携が必要になっている。

③権利擁護業務

- ・虐待支援では多重債務、認知症、ひきこもり、精神疾患等世帯として複合的問題があるケースが多くあり、対応や支援において多機関とのさらなる連携が必要となっている。
- ・1つのケースが長期化する傾向にある。
- ・コロナ禍で高齢者を狙った悪質な詐欺が増えており、啓発を強化する必要がある。

④包括的継続的ケアマネジメント業務

- ・ケアマネジャーと同行訪問し、連携が必要な他機関とのつなぎや、サービス事業所の紹介などの社会資源とのつながりを持てる支援や随時会議を活用して解決方針を明確にできるような対応を行った。
- ・コロナ禍ではあったが、原案委託時における委託連携加算や八尾市の高齢者福祉事業により、ケアマネジャーとの連携を図る機会が増え、顔の見える関係づくりができています。

⑤多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築

- ・令和2年度は感染対策のため研修会や情報交換会が中止になっていましたが、令和3年度は非対面でも情報交換や連携が行えるようリモートでの開催が進められたため、効率よく情報交換やネットワークの構築を行うことができました。
- ・世帯支援の問題が多く、この支援が不可欠であった。つなげる支援室との連携やCSW、就労支援を含む他機関と連携し、課題解決を図った。

⑥地域ケア会議の実施

- ・虐待事例について随時会議を開催することが多かった。
- ・地域ケア会議では、委員の方からの提案でテーマを考えることができ、事例提供や地域での状況把握などたくさんの協力を得て開催することができた。
- ・ケース内容が複雑化してきているため、他職種連携を図り里奈が課題解決に向けた随時会議を積極的に行う。必要に応じてICTを活用した会議も検討する。